夢・感動・笑顔あふれる幼稚園めざして…

tal # junion

第 18 号 (冬一その 3) 令和 4 年 2 月 2 日発行 園長 小菅 哲也

ほんとうに大切なものは目立たない。





私は、毎日相模湾をのぞむ西地区から東京湾に面した横須賀市の中心街へ自動車で通っています。この通勤も12年目を迎えました。この時期、道路にもさまざまな変化が見られます。昨日までデコボコだったところに、真新しいアスファルトが敷き詰められていたり、消えかかった路面標示に代わって純白の太いラインが浮かび上がっていたり…。開通したばかりの道路

のように生まれ変わった場所に差しかかると、なぜか身が引き締まります。

さて、この工事はいつ行われているのでしょうか。道路に面したスペースに、子どもたちに人気のショベルカーやロードローラー、巨大な照明器具や発電機が、所狭しと並んでいるのを見かけることがあります。こうした重機を使って、自動車の往来の少なくなった夜間に工事が行われています。凍てつくような寒さの中、作業員の皆さんは白い息を吐きながら、スコップやつるはしを振るっています。「照明がある」と言っても昼間の明るさには到底及びません。目的地をめざすドライバーのことを思いながら、道具を握る手に力を込めていることでしょう。

私たちの安全性や快適性、利便性は、こうしたふだんあまり 目にすることのない、夜間のハードなお仕事によって守られています。道路工事と同じように私たちの日常の生活でも、陽の 目を浴びない活動や注目されにくい作業にこそ、私たちの心根 (こころね)をつくる、大切なものが潜んでいるように思われ てなりません。



「寒稽古(かんげいこ)」に思いを馳せる



「寒稽古(かんげいこ)」という言葉をご存知

ですか。「寒稽古」と言うと、今日は、武道をはじめとしたスポーツ や芸能などで「冬に行われる練習」をさす言葉として用いられてい ます。ところが、本来は、「大寒から節分までの期間の早朝に行う、 唄 (うた) や踊りの練習」をさしていました。今よりずっと気温が

低く、便利な暖房器具はおろか照明もない江戸時代。まだ町が眠りについている朝4時に



起きて、真っ暗な中で大声を張り上げて歌ったり、身を切るよう な冷気の中で体をいっぱいに使って舞ったりすることがいかに つらいものであったかは想像に難くありません。

当時は、この厳しい環境の中で稽古(練習)を積むことが、 その1年の成長や活躍につながるものと信じられていました。 プロ野球やJリーグなどが、ちょうどこの時期、キャンプを行う

のにも相通じるものがあるかもしれません。また、味噌や日本酒もこの時期に仕込まれた もの(=寒仕込み)が、たいへんおいしいと言われています。

まもなく訪れる春。この春は、諏訪幼稚園の子どもたちにとって も(教職員にとっても)節目の季節となります。4月には、新しい 環境での新たな挑戦が待っています。それを充実したものにして いくためには、この時期の備えや過ごし方がたいせつなことは 間違いのないところです。

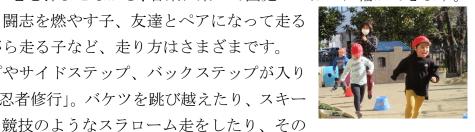


諏訪幼稚園のオリジナル寒稽古(かんげいこ)



諏訪幼稚園の朝の活動は、9時35分から始まります。最初は、「ラジオ 体操第一 | で体を目覚めさせます。続いて、「諏訪幼オリジナルダンス」。 運動会で代々披露してきたダンスや人気のダンスなど 10 数種類の中か ら、その日の当番さんがひとつ選びます。「当番の園児の個性や思いが表 れる」楽しみなメニューです。水分補給をした後、「マラソン」に入りま す。白い息を弾ませながら、音楽に乗って園庭いっぱいに輪ができます。

友達や職員に負けまいと闘志を燃やす子、友達とペアになって走る 子、音楽に耳を傾けながら走る子など、走り方はさまざまです。 担任の指示で、スキップやサイドステップ、バックステップが入り ます。一息ついた後は「忍者修行」。バケツを跳び越えたり、スキー





身のこなしから子どもたちの成長を感じるひと時です。これで終 わりかと思いきや、「校舎3階までの階段の昇り降り」が加わるこ ともあります。始まりは2往復でしたが、1月28日には、何と8 往復!にもなりました。

ここまでの活動時間は40分。人数が少ないこともあって、順番すぐに回ってきます。 運動の量は小学校の体育の授業に近づいています。まさしく「諏訪幼 オリジナル寒稽古」と呼ぶにふさわしい活動です。

最近、運動に取り組む10名の表情には、"小学生の風格"が漂って きました。「寒稽古」で手に入れた体力と自信を生かして、新たなス テージでも爽やかに活躍してくれることを願わずにはいられません。

